

質問

・農村では下水道設備普及率が40%くらいなのに、し尿の衛生処理率がほぼ100%なのはなぜですか？堆肥などに利用しているのでしょうか？

→下水道は、下水道法により、都市部における公共下水道、流域下水道、都市下水路を指します。

したがって、農村部には（狭義の）下水道はありません。それをカバーするのが、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、コミュニティプラントです。戸別には合併浄化槽もあります。

これらのいずれもない場合、汲み取って回収し処理場へ運ぶ方法もあります。

・道路拡幅のために用水路をなくしたら困るのではないのでしょうか？

→用水路の容量を確認した上で、蓋をして、上を道路の一部としています。

コメント

・来年、インドネシアに研究のためいく予定なので、講義中のJICAの活動は興味深かった。

・公園などの施設が都市の規模で不満の差が無いのが意外だった。小規模な都市では人口密度が低く十分に足りていると思っていた。

・都市規模が大きい程、防災施設に不満が大きいというのは意外であった。

・都市規模が大きい程、交通手段が乗り物化されて便利になると同時に、歩行者にとって危険になることにジレンマを感じた。

・人が住む上で環境整備事業が必要でそれも農村計画の一部ということに気づかされた。

・生活圏という考え方は自分にとって新鮮味があった。

・講義スライドをITCLMSにアップして欲しい。範囲が広すぎてどこが重要かわからない。

・ここ数十年で人々の生活圏が広がった。

・農村では、その周辺の地理的特性によって必要な環境整備が異なる。

Q.1

上下水道（特に下水道）、上下水道（特に上水道）、和式トイレの撤廃、下水処理の効率化・安全性の向上、下水道をはじめとする水環境整備、上下水道の整備(5)

道路整備(2)、歩道整備、生活道路、道路の拡幅(2)、常時左折可の交差点において標識がわかりにくい

生活環境整備、ゴミ箱、代々木公園のゴミ捨て場、騒音、DID30分以内アクセス、南北線の本数、最寄り駅の改札外にも自発電車掲示の電光板を設置、経常収支比率、集落防災安全施設(3)、防災施設、団地の耐震補強工事、水路・ため池等の安全施設の整備、安全な水の確保、ライフラインの整備

Q.2

上水道、下水道、道路、圃場道路整備、通信インフラの整備、交通整備、教育施設の不足、水利事業、道路舗装率が悪い、防災施設？